

平成11年5月7日

日本分析化学会 高分子分析研究懇談会 会員各位殿

日本分析化学会 高分子分析研究懇談会
会長 森 定雄

99年度総会ならびに第300回例会開催案内

貴社ますます御清栄のこととお慶び申し上げます。第300回の例会を下記のように開催いたしますが、新年度最初の例会になりますので、最初に総会を開催し、98年度の活動報告と99年度の活動計画の説明を簡単にさせていただきます。また、講演の後に、交流の場を設けたいと考えております。是非、御出席下さい。

尚、年度が変わりますので、**名簿の整備**をしたいと思っております。例会への出欠に関係なしに、出欠届けの裏面に御記入いただいて同封の封筒で、5月25日必着で郵送下さい。

御案内が遅れましたことをお詫び申し上げます。

記

1. 日時

5月31日(月) 13:00~17:00

2. 場所

簡易保険会館「ゆうほうと」 ☎03-3490-5111

JR 五反田駅下車 5分

3. 予定

1) 総会 13:00~13:25

98年度の活動報告

99年度の活動計画

2) 講演 13:25~16:00

13:25~14:15

「マイクロサンプリング質量分析法(μ -MS)——ナノグラム世界の新しい

ポリマー評価法——」

(東リレサーチセンター) 嘉本 律氏

現在、10 μ オーダーの微小試料あるいは微小部の有機物を分析する場合には、一般的には顕微赤外やレーザーラマンが用いられているが、これらの振動スペクトルから得られる情報だけでは不十分な場合もある。しかし、有機物の分析で最も有用で広く用いられている質量分析法であるGC/MSやLC/MSでは微小試料の分析はできない。

ナノグラムオーダーの微小試料の質量分析法がマイクロサンプリング質量分析法(μ -MS)である。これを用いて分析が難しい架橋型ポリマーの架橋あるいは劣化機構についてもより詳細な情報がえられることが分かったので紹介したい。

(講師からのメッセージ)

14:20~15:10

「近接場分光の現状と展望」

(日本分光) 池田照樹氏

光の回折限界を越えた極微小領域のキャラクタリゼーションの手法として期待されている近接場分光法について、近接場光学顕微ラマン分光を中心に、現状の到達レベルや今後の可能性について御講演いただきます。

15:15~16:00

「企業における分析センターの役割」

(大日本印刷) 黒田孝二氏

企業の分析部門のメンバーが、企業活動に貢献していることを実感させるにはどうしたらいいか、努力と技術知識の集大成である分析報告書の価値を他部門に正當に評価させるにはどうしたらいいか等々、分析部門の管理者であればどなたでも悩む問題について、ご経験とお考えになられていることをご紹介します。

3)交流会

16:00~17:00

ケーキ/オードブルと飲物を用意します。講師を囲んで、あるいは、会員同士で自由に懇談・情報交換していただきます(無料)。

以上